

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072501097		
法人名	特定非営利活動法人わだの家		
事業所名	グループホームわだの家		
所在地	長野県飯田市南信濃和田518-1		
自己評価作成日	平成21年10月8日	評価結果市町村受理日	平成22年2月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072501097&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072501097&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>恵まれた環境にあり地域からの全面的な支援を受けて、敬老行事や食事会など地域住民との交流を実施している。 豊かな自然に囲まれた環境を利用したの四季折々のドライブやスーパーへの買い物、野外バーベキューなど開放感のなかで食事を満喫することができる。 一人ひとりの持てる力を引き出し、毎日の生活に楽しみを得られるよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム開設4年目を迎え、認知症を抱える家族や、地域の人たちからの相談を受け、共用型認知症対応通所介護事業所を開始した。通所の利用時間も家族の都合等により融通が利く事が出来、又、グループホーム利用者と通所利用者との交流があり、話題が豊かになる等お互いにより刺激を受けている。地域における”わだの家”は、基本理念に謳ってあるようにその人らしい生活を送ってもらうためのパートナーとしての支援を実践している。また、年が経つにつれ、職員みんなの努力もあって、地域の方の理解が深まり、地域の人にとっても大切なホームとなってきている。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に全職員で作ったが、2年後に見直しをした。地域に密着したサービスを提供するという理念を強く持ち、毎月の学習会で確認をしている。	グループホーム開設時に全職員で理念を作り、2年後に地域密着サービスの意義の実践につなげるよう、見直しを行なった。利用者への言葉がけ、記録等日常のサービス提供場面に理念の実践を受け取ることが出来る。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達とは、日頃から密接な付き合いを行っており、事業所はもとより利用者と地域住民とは行事等を通じて親しく付き合っている。	事業所は基より、利用者と地域住民とはお祭り等の行事を通じたり、近所からお茶飲みのお誘い、散歩中にトイレをお借りするなど日頃から密接なお付き合いを行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を抱える家族や、地域の人達からの認知症に関する様々な相談に応じている。また、地域の人達には、認知症の人の気持ちなどを話し、理解を求める取り組みを実施している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、年6回以上開催して広く意見を求め、サービス向上に活かしている。	運営推進委員会は、年6回以上開催し委員から地域の情報を受ける等広く意見を求め、最近では、防災についてのアドバイスを求めるなどサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	飯田市介護高齢課とは密接な関係を保ち、協力関係を築いている。	事業を運営していく上での問題解決等、市担当者と密接な関係を保ちながら、事業所の実際やケアサービスの取組などの協力関係を築いている。	

外部評価結果(グループホームわだの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、身体や精神さらに社会的弊害をもたらすもので、職員間で拘束をしない宣言を実施、あらゆる拘束をしない取り組みを実施している。	管理者、職員はあらゆる拘束の、社会的弊害をもたらす意義を理解している。ホームの玄関の開放、言葉での拘束等、サービス提供場面において職員間で拘束をしない宣言を実施し、あらゆる拘束をしない取組を実施して	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを基に学習を行い、職員が気づきにくい言葉の虐待を含めて防止に取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護サービスを実施するに当たり、権利擁護は重要事項として、日頃の勉強会でも必要性を話し合い、その人らしい生活を送っていただくための介護に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、重要事項説明書により事業所の運営方針などを説明し、利用者や家族の理解を得るよう努力している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は結成してないものの、定期的に行事を開催し、家族に参加していただく機会を多く持っている。その折に、家族の意見や要望を聞くようにしている。	行事等を通じて家族に参加して頂く機会を多く持ち、又面会時に話し合う機会も積極的に設けている。出された意見の改善の経過や結果を職員に伝え、運営に反映させていく取組がある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の学習会で、運営についての意見や考えを話し合ってもらい、それを事業運営に反映している。	毎月実施している学習会において、職員からの意見や提案として、例えば、入浴の自立支援方法等、職員からの意見等を事業運営に反映している。職員も運営には、関心を持ち、意識が高い。	

外部評価結果(グループホームわだの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の努力や、勤務態度、利用者の反応などを把握し、働きやすい職場作りに努力しているが、給与水準は高くない。本年介護職員処遇改善を実施した。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修会に職員を派遣し、研鑽の機会を作っている。また、日常の業務遂行の中で介護技術の実践を学んでいる。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>当事業所は山間僻地にあつて、他の事業所とは遠隔にあり、交流はいつでもできるという状況ではない。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人と真摯な気持ちで向き合い、信頼関係を築くことに心がけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族とは、家族の思いや困っていること、不安に感じていることやどのような介護を求めているかなどを聞き、関係づくりに努力をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族がどのような思いなのか、どのような介護を望んでいるのかを推測し、目標を定めてケアプランを立て、それに沿ったサービス提供に努めている。</p>		

外部評価結果(グループホームわだの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者も職員も一つ屋根の下で暮らす家族という気持ちで生活している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族それに職員が互いに連絡を密にし、共に支え合うという気持ちを持っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって大事な場所、生家訪問や先祖のお墓参りなどを行い、なじみの人や場所との関係を深める努力をしている。	本人にとって大切な場所、生家訪問や祖先の墓参り等を行い、これまで本人を支えてくれたり、本人が支えて来た周りの人間関係を大切にしている。職員も家族、地域等に関係の継続支援が続くよう努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大人数でできるゲームや、大きなこたつに当たりながらの団欒など、利用者同士の関わりを深める環境を作っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所している特養を訪問したり、亡くなった利用者の命日の墓参り、残された家族と連絡など、契約が終了しても関係を持続している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人から毎日の生活の希望を聞いたり、利用者が何を望んでいるかをくみ取り、利用者一人ひとりの思いを大切にした支援を心がけている。	利用者から毎日の生活を通じ、つづやきやすさの中から、何を望んでいるかを見つけ聴いたりして、それをセンター方式の活用により、その人らしく暮らし続ける支援を全職員で共有している。	

外部評価結果(グループホームわだの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を知り、暮らしてきた環境を把握し、サービス提供の基礎にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人ひとりの過ごし方や心身状態、その人が有する力を見つけ出す努力を続けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が快適で自分らしく生きるため、介護計画は、本人・家族の意向を尊重した介護計画を立てている。	介護計画は、その都度本人や家族、関係者の意見やアイデアを反映し、モニタリングを重視して、本人が快適で自分らしく生きるためのチームケアによる介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	種々の記録の中に、個人別記録簿があり、それには日々の様子やケアの実践、気づきなどが記録されており、職員間で共有して介護に活かし、さらに介護計画の見直しにも利用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに対応して、柔軟な支援やサービスの多機能化に努める。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域性から、環境と周辺住民とに恵まれ、安全で安心して豊かな生活することができる。		

外部評価結果(グループホームわだの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は密で、月1度の往診と随時の往診もあり、さらに県立病院と提携を結んで、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医師との関係は良好であり、職員は利用者の状態を的確に把握しており、その時のやり取りを通じて適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師免許を持った職員が常にかかりつけ医と連絡を密にし、適切な受診を受けられる環境にある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医を通して、病院関係者と情報交換等関係を深めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までに看取りの経験はないが、終末期への対応はできており、今後は家族の話し合いを持ち、方針を共有したいと考えている。	終末期の対応は職員間で共有しているが、今後は家族等の関係者と共に話し合いを持ち、方針を共有できるよう検討している。	更に重度化や終末に向けた話し合いを本人、家族等と繰り返し行い、方針を共有し、意向や話し合いの経過を文章化され、定期的に見直す事が望ましい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医から、急変時の対応について指導を受けたり、看護師免許を持った職員から常に訓練されている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年行われる避難訓練時や学習会で、マニュアルに沿った訓練を行い、災害に対する対応を身につけている。また、近所の住民による災害応援協力隊を組織し、非常時に1分以内に駆けつけることができる体制ができている。	避難訓練や学習を通じて災害に対する対応を身につけている。非常用食料や備品等も用意している。地域住民による災害応援協力隊を組織し、地域との協力体制が築かれている。	

外部評価結果(グループホームわだの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重し、プライバシーの保護に努めている。	一人ひとりの人権を尊重し、日々の関り方の点検や学習会を通じて、サービスの提供現場で確認しあい、自己点検に努めている。	さりげない言葉かけや対応を心掛け、一人ひとりの誇りを損ねないように努めているが、更に学習を深め、日々の関りの質をより高めていかれることを期待する。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送る中で、どうしたいか聞いてみたり、何を選択するのか本人の意志を確認するよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生き方や思い、ペースを優先し、その人らしい生活を送られるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものを本人に選んでもらったり、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の郷土料理が好評で、材料づくりから調理まで、分担して楽しみながら食事作りをする。食事の後片付けや食卓の台拭きなども、できる人が職員と一緒にしている。	四季折々の郷土料理を職員と一緒に作り、利用者の持っている力を上手く引き出している。当日は、秋の花が咲いているホームの庭で、地元の肉を材料にした焼肉料理、準備や片付け等は利用者、職員一緒に行なっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分量の把握をし、バランスのよい食事に配慮している。		

外部評価結果(グループホームわだの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きが自分でできる人には声掛けと見守りをし、できない人には丁寧にブラッシングをしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うなど、自立に向けた支援を行っている。	センター方式を活用し、排泄パターンを把握しオムツ使用の利用者にも1日1回トイレでの排泄や自立に向けた支援を行なっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や繊維質の多い食事作りを心掛け、便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ本人の希望に沿った入浴を心掛け、入浴剤を変えるなど楽しめるように配慮している。	利用者の希望を聴きながら、ゆったりと入浴を楽しんでもらっている。拒む利用者には、薬湯などを使用したり、気の合う利用者同志の入浴を行ない、個々にそった入浴が楽しめるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣を大切に、そのときの状況に応じた休息や、気持ちよく眠ることができるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、看護師資格を持つ管理者が十分な説明をした上で、支援を行っている。安易な誘眠剤の使用は控えるなど、副作用についても理解している。		

外部評価結果(グループホームわだの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のタミヤ、食事づくり、食器洗いなど本人が持つ力を出すことができ、張り合いがある生活が遅れるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、行きたいところへ出掛けたり、四季折々を楽しむドライブや、家族とお花見や花火見学、クリスマス会等を行ったり、地域の人達と野外バーベキュー楽しんだり、戸外へ出掛ける支援を行っている。	四季折々を楽しむドライブや、お花見での外食、スーパーへの買い物等々、地域の人々の理解と協力を得て、本人の希望により日常的な外出支援を行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している人はいないが、自分の欲しいものを買に出かける支援は行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出すことと、家族と電話で話すよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材をふんだんに使った、温もりのある住宅で、どの高齢者も過ごされてきたような居心地のよい造りになっている。	共有の場所には、季節の花が飾られ、また利用者の心にも刻まれている遠山郷の伝統文化の写真が貼られ、利用者が居心地良く過ごす事が出来る空間作りとなっている。木材をふんだんに使った温もりのある住宅である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあったもの同士で過ごせる大広間や、玄関先の休憩所や、あちこちに置かれたイスやソファは、一人きりの居場所となる。		

外部評価結果(グループホームわだの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は8畳の和室5部屋と洋室4室があり、本人が住み慣れた環境に近い部屋を選ぶことができ、使い慣れた家具を持ち込むのに十分な広さが確保されている。	本人が今まで住みなれた環境に近い居室を選ぶことが出来るよう、和室と洋室がありその居室には、本人が気に入っているもので、自分らしい部屋作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い慣れた家具等を持ち込むことにより、居心地がよく自立した生活を送ることができる。		